



第56回 全国手話通訳問題研究集会

～サマーフォーラム in とくしま～

第56回全国手話通訳者問題研究集会サマーフォーラム in とくしま実行委員会事務局
TEL/FAX 088-631-1666 E-mail: summer.fm.tokushima2023@gmail.com
〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2丁目1-59 徳島県立障がい者交流プラザ内 聴覚障害者福祉協会気付

ホームページ

公式LINE



速報 第5号

2023年7月31日発行

大会マスコット **ゆびっち**® の話

ゆびっちは徳島県手話通訳問題研究会(徳通研)の事業部長だった真鍋邦子(まなべ・くにこ)さんが考案したキャラクターです。フェルトの中に針金が入っていて、指を自由に折り曲げられるようになっています。胸元に飾ったり、アイラブユーの形にしたり。とても愛らしく、あっという間に徳通研の人気者となりました。2008年4月に特許申請し、2009年1月23日に登録され、ゆびっち®が誕生しました。登録番号は5198254です。

私たち徳通研にとって、ゆびっちは唯一無二の存在で宝です。

今回のサマーフォーラムでも、あちこちに“ゆびっち”が登場する予定です。是非“ゆびっち”を見つけてくださいね。



スタッフの服装紹介

👋 藍色のTシャツです



目印は左胸

大会当日に分からないことや困ったことがあれば紺色のTシャツを着たスタッフにお声がけください！

藍の話

武士の時代には「縁起の良い色」として好まれ、明治には海外から「ジャパン・ブルー」と称えられた、日本を象徴する色でした。

そして、徳島は藍の産地です。今も徳島では、伝統を受け継ぐ藍師(あいし)の手で「阿波藍」が製造されており、生産量は全国シェアの大半をしめています。なぜ徳島県で藍が栽培されたのか。昔、吉野川には堤防がなく、台風の時期には大雨で川が氾濫することが多く、稲作には向いていませんでした。その点、台風の季節の前に刈り取りをする藍は徳島県の風土に適していました。また、度重なる水害は藍の収穫後の畑に肥沃な土を流入し、同じ土地に続けて植える連作も可能としました。

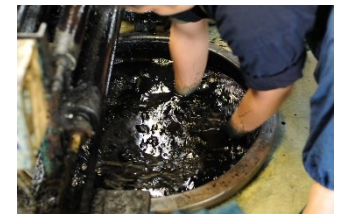
吉野川の厳しい自然と恵みとともに阿波藍はあり先人たちの絶えまぬ努力によって阿波藍が作られ、守られてきました。そして阿波藍は日本の藍文化の伝統を支えています。

そんな阿波藍や藍色は私たちにとって特別な色です。コロナ禍で4年ぶりとなった対面式のサマーフォーラム。厳しい環境下でも、私たちは先人と同じように知恵と工夫を惜しまずがんばりたいと思っています。

<イメージ写真>

みなさま ご協力よろしくお願ひいたします。

講座Aの①鳴門コース・②脇町コースともに藍染体験があります。お楽しみに！



上映会

虹色の朝が来るまで

8月19日(土)18:30~19:40

参加費 1000円(定員150名) 場所 シビックセンター さくらホール

当日に定員割れをした場合には、申込みをされていない方も視聴できます。一般の方も視聴します。ご了承ください。

